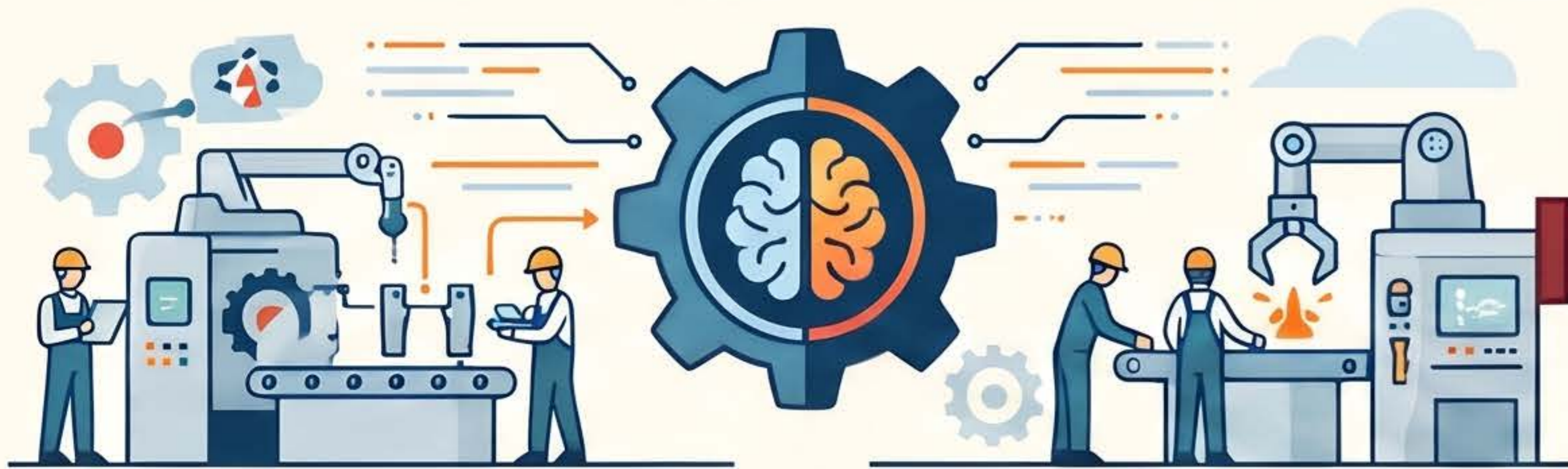


フィジカルAI競争：日本の製造現場「暗黙知」を守る戦略

顕在化する「技術スタック」による事実上の独占リスク

国内データ主権と競争力を守るための対抗策



- 製造業の3社に1社がAIロボットを導入・検討中



輸送機器分野では80%に達し、現場データのAI化が急速に進行

- モデル改善ループの「外資吸着」リスク



クラウドやシミュレーション基盤を据える側にデータと学習成果が集中する構造

- 契約における権利帰属のブラックボックス化

多くの共同開発でIP帰属や再学習権が非公表のまま契約が積み上がっています



構造的リスク



- 国産ロボット基盤モデルとデータ基盤の構築

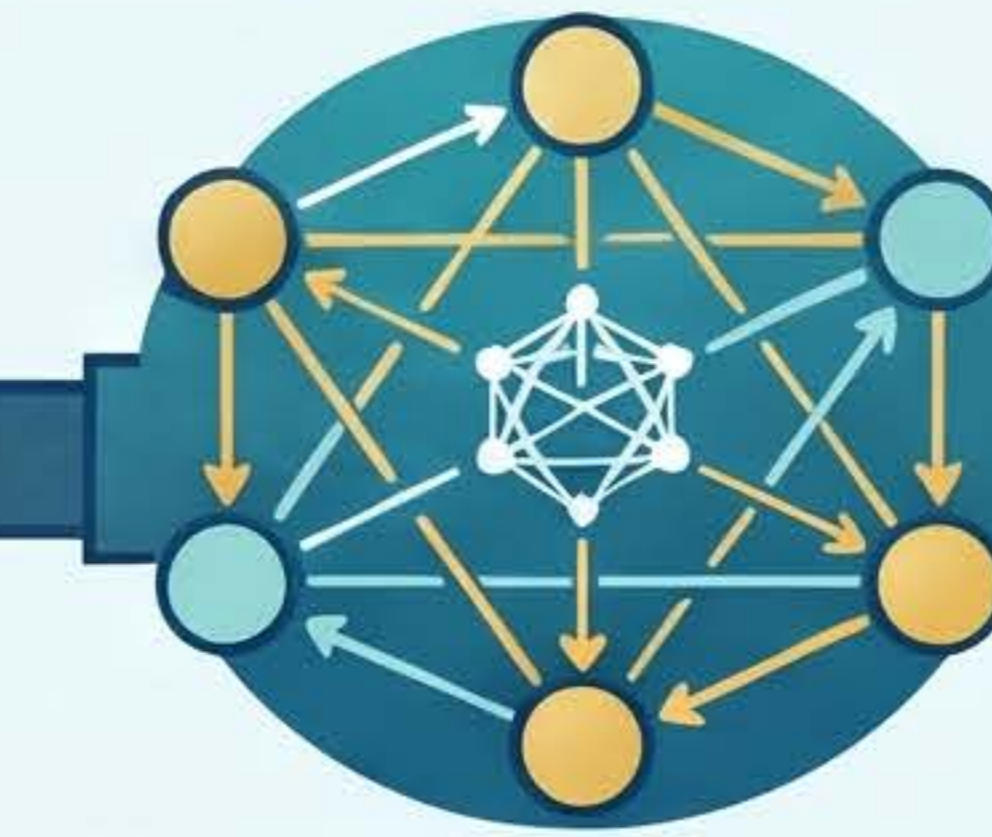
AIRoAやNEDOが、外資依存を避けたオープンな国内データ基盤の整備を推進

- 知財・データ取引指針による契約の標準化

2026年公表の指針に基づき、生データやモデル重みの権利帰属を明確に定義

- 外資企業との提携において定義すべきデータ権利の分類

権利を定義すべき項目	具体的な内容
入力データ	生データ、前処理データ、注釈(アノテーション)
学習成果	モデルの重み、学習済みパラメータ、蒸留モデル
運用ログ	評価ログ、フィードバック、テレオペ履歴



産業データスペース「Ouranos Ecosystem」

データのコントロール可能性を担保しつつ、相互運用性を確保するインフラ